連載：軌跡

再び教壇に

増田　史朗

私は，令和 2 年度末をもって定年退職しました。そして現在，県立流山南高校で再任用教諭として勤務しています。13 年ぶりに教壇に立つこととなり，大きな期待感と同時に，ちゃんと声は出るだろうか，数学的な感覚は錆び付いていないだろうかという不安を抱えてのスタートとなりましたが，素直で元気な生徒たちと一緒に楽しく充実した日々を過ごしております。

さて，私は県立高校 3 校で通算 24 年間勤務した後，千葉県総合教育センターに異動となり，主として情報教育を担当する部署であるカリキュラム開発部メディア教育班に配属されました。ここでの 4 年間で，私はいくつかの調査研究を担当しましたが，そのうちの一つが「『個の学び』と『協働的な学び』の創造を図る ICT の効果的活用」という研究でした。授業におけるタブレット PC の効果的な活用法について，いくつかの研究協力校での授業実践を通して調査研究するもので，一斉学習，個別学習，協働学習のどの学習スタイルにおいても，タブレット PC が効果的に活用できることを報告しました。その研究から約 10 年がたった今，皮肉なことにコロナ禍によって GIGA スクール構想の推進が加速し，児童生徒一人一台のタブレット PC の実現がぐっと近づいたような気がします。ひょっとしたら，10 年前の研究の中で紹介した実践事例を，私が実際に授業で実践する日も近いかもしれません。しかし，私自身の教員生活は長くて残り 5 年しかなく，学校の ICT 環境が整うのを待っている時間はありません。そこで，何事も形から入ることを大切にしている私は，タブレット PC，タッチペン，プロジェクター，スクリーンなどの機器を買い揃えることにしました。教師用のタブレット PC が 1 台あるだけでは，ごく限られた活用しか出来ないのですが，実際に授業で使ってみて，改めて数学の授業と ICT の相性の良さを実感しています。また，たくさんの方々が自作の教材を WEB 公開されているので，アレンジして利用しています。元気に頑張っている私の姿を，今年 6 月に本校を会場として開催予定であった数学部会春季研究大会の公開授業でお見せ出来ると思っていたのですが，コロナ禍により中止になってしまいとても残念です（本当はホッとしています）。

ところで，私と数学部会との関わりは，平成 7 年，私が柏南高校に勤務していたときに，当時の所属長で数学部会の第 9 代部会長であられた日野原博校長先生の下で数学部会の会計に任ぜられことに始まります。以後 13 年間，役員を務める中で，私の数学を通した人間関係は，縦に横に大きく広がっていきました。当時一緒に役員をされていた先生方の数学教育の発展に対する情熱はたいへん熱く，輪の中にいるだけでたくさんの刺激を頂きました。そして，年 2 回の研究大会や部会誌 $\alpha-\omega$ の中で，ご自身の研究や授業実践を発表される先生方が大勢いらっしゃるのを知るにつけ，何もしてない自分を恥ずかしく感じたものでした。数学部会の役員を務めた 30 歳代から 40 歳代半ばまでの間に，たくさんの出会いに恵まれ，様々な経験を積ませていただいたことにより，私は成長できたと思っております。お世話になりました数学部会役員ならびにすべての会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

新しい学習指導要領が目指す学びの形態の変革や学習評価の在り方，コロナ禍に対応した授業形態の工夫など，取り組むべき課題はたくさんありますが，このようなときこそ，すべての先生方の知恵と力を結束する場として，数学部会が果たす役割はたいへん大きいものと考えます。数学部会の発展と会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。